

## 1 研究主題

# 「自ら学び、共にひびき合える子どもの育成」

～文章の内容を的確にとらえて読むことができる子をめざして～

## 2 主題設定の理由

現在、情報化や少子化、核家族化といった言葉で表現される社会環境の中に児童は置かれ、受け身的な姿勢や、音声言語や文字表記による表現力の不足、社会性に欠けた言動などがしばしば指摘されるところである。

本校の児童も、「与えられた課題は熱心に取り組むが、自ら課題を見出すことがなかなかできない」、「自分の思いや考えを相手に上手に伝えられない」、「互いに認め合い協力しながら共に学ぶ（育つ）ことが十分にできていない」といった実態が見られる。

そこで、児童自ら課題を見つけ、試行錯誤しながらその課題を解決しようと努める中で、自分の周りの人や自然などに意欲的に関わり、そのよさを理解し、共生していこうとする力を育てたいと考え、本主題を設定することにした。

また、この主題に取り組むことにより、「生きる力」を育てることができると考える。

## 3 研究の経過

本校では「自ら学び、共にひびき合える子どもの育成」を研究主題のもと、平成25年度から、国語科（読み物教材）を窓口として新しく研究を始めた。「文章の内容を正確に読む力・互いに自分の考えを伝え合うことを通して自分の表現力や思考力・判断力を豊かにしていく力を身につけることを目指していく。また、教材を分析し、子どもたちが意欲的に取り組む国語の学習を実践していく教師の授業力を高めていく。」ことを目標に取り組んできたが、昨年度、次のような成果と課題が挙げられた。

### 『成果』

- ・子どもたちが物語文に親しむようになり、また、自分の考えをもてるようになってきた。
- ・読む力をつけるために、焦点化した動作化・心情曲線・センテンスカードの活用・挿絵・実物の提示は効果的だった。
- ・研究の重点を発問と設定したことは、教材文の構造や主題を指導者の立場から読み、指導すべき内容を把握して、学習展開を工夫したり、子どもたちの思考の深まりをねらった発問や板書を工夫したりする努力ができた。
- ・単元を貫く言語活動を意識したことで、指導計画に見通しをもち、身につけさせたい力を意識して指導することができた。また、「〇〇を作る。」という活動が目標ではなく、この活動を通してどのような読みの力をつけていくのか、確認することができた。

## 『課題』

- ・課題や発問は教師がねらいをもって設定したもの、児童の興味関心が高いものから設定したものが提案されたが、児童の思考が深まるものをさらに練り上げていく必要がある。また、本文に立ち返って確認する活動や本文を考えの根拠とするような活動をいつも取り入れ、読む力をつけていくことが課題としてあげられる。
- ・研究協議の中で提案された発問や教材分析表について話し合い、さらに、指導力を磨いていくことが大切である。
- ・単元を貫く言語活動について、読みの力を付けるためのものであること・年間を通していろいろな活動を経験させていくことを共通理解していく必要がある。
- ・自分の考えをもつこと・学習の記録をしていくものなどのために、自分の考えを書くことを習慣づけていく必要がある。ワークシートなど、書かせ方を工夫していくことも課題である。

昨年度は発問に重点をおいて研究を進めてきた。文章を読むこと・自分の考えを伝え合うことについて、意欲は高まってきているが、想像豊かに読むことについては指導を要する。文章の内容をとらえ、自分の考えをもつことができると、人とかがわりたくなり、自ずと交流へと発展していくものと考ええる。

そこで、3年目となる今年度も、副題を「文章の内容を的確にとらえて読むことができる子をめざして」とし、一人ひとりが文章の内容を的確にとらえて読む姿を目指して、研究を進める。

## 4 研究主題及び副主題の内容について

### ◎ 研究主題：「自ら学び、共にひびき合える子どもの育成」について

#### (1) 「自ら学ぶ」とは・・・

「〇〇してみたい。」という思いから、自発的な学習が始まる。学ぶとは、その思いが、様々なかわりあいを通して、自分を見つめ、生きる喜びを実感しながら、生き生きと充実した思いや考えを表現することである。自ら学ぶとは、自分の既習の力を使い、文章の内容を的確に押さえたり優れた表現や文章の構成（書かれ方）をとらえたり、作者や筆者の思いに触れたりして、自ら課題を見つけることができる子どもの姿として捉える。

また、自分の思いや考えを、言葉を媒体として豊かに表現できる子どもの姿を目指したい。双方向の交流の中で、自分の考えや思いをさらに豊かに実らせていくことが、自ら学ぶことへと結びついていくと考える。

#### (2) 「共にひびき合える」とは・・・

文章の内容や友達の考えの受けとめ方や課題解決の方法は様々である。

共にひびき合っていくためには、まず自分の考えをしっかりと持つことから始まる。自分の考えができると、それを誰かに伝えたい、自分の考えと友達の考えを比べたい、他の考え方も知りたい、という願いを持つ。そういった願いをもつ子ども同士が考えを伝え合うことで、ひびき合うのである。ひびき合いが生まれることで、子どもがお互いの考え方の共通点や相違点に気づいたり、自分

の考えが整理されたり、自分の考えに自信を持ったりするなどの変容が見られることを期待したい。

そのために、子どもの意欲や関心をかきたて、子どもにとっての必要感がある課題や考える場の設定も大切となってくる。そして、どの文章・言葉に着目させたら子どもたちの生き生きとした伝え合いとなるのかという、教師の教材分析・授業の構想力・手立てが大切となってくる。

昨年度の課題や児童の実態から、子どもたちの思考・判断・表現活動を豊かにして、読む力を付けていくことが課題としてあげられた。まずは、しっかり自分の考えをもち、言語表現ができることが大切である。そこで、副主題について、次のように考える。

## 研究の副主題

### 「文章の内容を的確にとらえて読むことができる子」

#### (1) 「文章の内容を的確にとらえて読む」について

「文章の内容を的確にとらえて読む」とは、叙述を基に想像豊かに読むこと（文学的な文章）、また、段落相互の関係や事実と意見の関係をとりえて読むこと（説明的な文章）とする。そのために、次のような力を身につけさせていきたい。

文学的な文章	説明的な文章
<ul style="list-style-type: none"><li>・句読点に気をつけて、音読できる。</li><li>・主語や述語をとらえて読むことができる。</li><li>・接続語の意味をとらえて読むことができる。</li><li>・順序（時間・事柄）をとらえて読むことができる。</li><li>・描写（心情・行動・情景）やその変化、相互関係を叙述に即して読むことができる。</li><li>・自分の考えや感想を持つことができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・句読点に気をつけて、音読できる。</li><li>・主語や述語をとらえて読むことができる。</li><li>・接続語の意味をとらえて読むことができる。</li><li>・順序（時間・事柄）をとらえて読むことができる。</li><li>・段落相互の関係や事実と意見・感想の関係をとりえて読むことができる。</li><li>・自分の考えや感想を持つことができる。</li></ul>

このような内容を共通理解して進め、成果としての的確に読む力を身につけさせていくことを目指す。読む力を身につけることにより、言葉を学ぶことができ、友達の考えに触れ、想像豊かに考える力も身につくと考える。

## 5 研究の仮説

文章の内容を的確にとらえて読むことで、子どもたちの伝え合いを豊かにすることができる。そして、楽しんで読むことにつながると考える。そのために、次のことを大事にしながら、授業づくりを実践していくことにする。

- ・児童の視点・教師の視点で教材研究をし、考える場や育てたい力を明確にする。
- ・児童の思考が組み立てやすくなったり、話し合いの流れが分かりやすくなったりするよう、板書を工夫する。
- ・児童の思考が深まり、かかわりが豊かになるよう、発問を工夫する。

## 6 研究内容

(1) 問題解決型の学習の推進をし、学習課題の設定の工夫をする。

- ・児童の思考・判断・表現活動が伴い、身に付けたい力がつけられる課題設定が必要である。課題は、個が考えをもち、互いに深め合うことができるもの・思考判断や表現活動が見込まれるものになるように設定する。
- ・言語活動の設定―課題設定―見通す―考える―伝え合う―振り返る（見つめる）の学習過程をもとに、学習の流れを考える。
- ・子どもたちの考える場を焦点化する。

(2) 単元を貫く言語活動の開発

- ・単元を貫く言語活動を設定することは、子どもに学習のゴールを提示することである。どんな学習をするのか、どんな力が身につくのか、意識させていく。
- ・言語活動を通して、思考力・表現力・判断力を身につけていく。自ら学び、共にひびき合えるような相手意識・目的意識をもった言語活動を取り入れた単元構成を工夫する。
- ・「〇〇をつくる。」ことが目標ではなく、その活動を通して、つけたい読みの力を明確にしていく。

(3) 教材分析に取り組む（今年度の重点）

- ・子どもの興味関心や疑問を想像しながら、教材分析に取り組む。子どもたちが考え悩み、共にひびき合いができるように着目したい言葉や文章、文章構成や書き方の工夫を分析する。（子ども・教師の視点で分析していく）
- ・考える場を焦点化していく。
- ・教材（作品）の特徴・価値をとらえ、育てたい力を明確にしていく。
- ・分析表はおおまかな枠を提示するが、教材の特色にあわせて工夫していく。

(4) 発問・板書を工夫する。（今年度の重点）

- ・教師がねらいをもって考えた発問・児童の興味関心をいかして考えた発問とどちらも考えていくが、児童が教科書の本文に立ち返り、根拠を探したり判断したり、登場人物の心情を的確に表現するにはどんな言葉がよいかを考えたりする活動が伴う発問を研究していく。また、主発問を助ける切りかえしの発問・ゆさぶりの発問などを工夫する。
- ・学習のねらいを明確にするために、本時目標を具体的にしていく。（本時のみに当てはまる目標）
- ・互いの思考の整理や確認・比較ができるような板書・学習環境を工夫する。

## 7 研究の方法

(1) 低・中・高学年ごとにブロックテーマを決めて、研究を進める。

ブロックテーマは、系統性をもつように、推進委員会で話し合う。

(2) 研究授業の実施

- ・全員の提案授業を計画する。(全体会7・ブロック14)
- ・授業提案をし、研究協議を行う。
- ・研究の重点を決めて進める。

3年目となる今年度は、発問・板書・教材分析について研究を深める。

(3) 研究協議

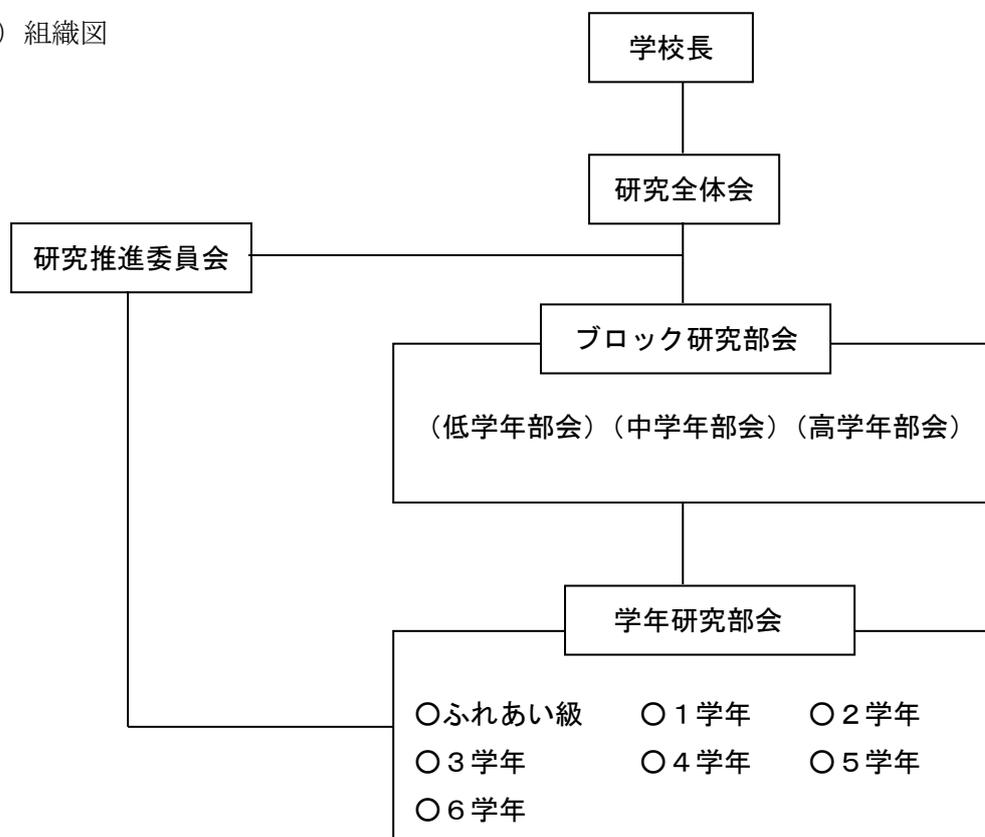
- ・自評は、本時目標や手立て(指導)について成果と課題を用紙にまとめ、印刷し配布する。
- ・協議の柱は、重点となる発問・板書とし、参観者が書いた付箋紙を使って協議をする。
- ・提案授業ごとに行い、記録する。

(4) 研究だよりを発行する。

- ・各授業の成果と課題を発行する。(各推進委員)
- ・推進委員会の内容、研究の資料などを発行し、研究内容について共通理解を図る。

## 8 研究の組織

(1) 組織図



○研究推進委員会

- ・研究推進のための企画・立案を行う。研究協議の準備やグループの作成を行う。
- ・推進委員会だよりを発行する。
- ・研究図書などの購入と紹介をする。

○研究全体会

- ・授業者が授業提案をし、協議の柱に沿って研究協議をし、成果と課題を次に授業に生かしていく。
- ・3つの研究協議グループ（メンバーは毎回変える）で付箋紙協議をする。
- ・グループ協議の司会は推進委員が、記録発表は推進委員以外が輪番で行う。
- ・全体会の司会・記録・会場作りは学年輪番とする。

○ブロック研究会・学年研究部会

- ・ブロックテーマを決め、年間を通しての研究計画を立てる。
- ・授業者が授業提案をし、協議の柱に沿ってブロックで研究協議し、成果と課題をまとめる。

(2) 組織構成

低学年部会	教頭・養護教諭・1年担任・2年担任
中学年部会	教務主任・3年担任・4年担任・ふれあい1組担任・ふれあい2組担任
高学年部会	校長・5年担任・6年担任・TT・専科
研究推進委員会	校長・教頭・教務主任・研究主任・各学年から1名

10 研究の全体構造図

